

令和 7 年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

両城中学校区 校番 19 呉市立両城小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	・知・徳・体に対する指標設定が適切だと思う。 ・学習指導要領など法令をしっかりと遵守している。 ・評価テストの平均点を指標としていた。個人の伸びを評価する指標を示すのは難しいと思うので、これで妥当だと思うが、それぞれの伸びしるを大切に指導に当たってほしい。
目標達成のための方策の適切さ	A	・具体的な取組の提示で、評価・分析が容易にできるものとなっていた。
自己評価の結果の分析の適切さ	B	・データや現場の経験を踏まえた分析が行われていた。 ・いじめ防止に係って、「いじめ」の捉えについて本当に児童が理解できているのか、アンケート項目に工夫が必要ではないか。 ・児童アンケートだけでなく、教師アンケートや保護者アンケートなどの評価も考えてもよいのではないか。
今後の改善策(案)の適切さ	A	具体的な案の提示がありよかった。
その他		・他の委員の貴重な意見が参考になった。 ・「いじめはどんなことがあっても許されない。」子供一人一人に正面から向き合う努力を続けてほしい。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	・自己評価の結果の分析に当たっては、児童アンケートに加え、教職員評価や保護者評価の視点も踏まえ分析を行っていく。 ・現在取り組んでいる内容を確実に実践していくとともに、教職員の主体的な取組が少しでも行われるよう、主任層に働きかけながら組織としての動きを作っていく。中間評価で示した改善策の取組について振り返りを適切に行い、毎月の分掌会での検討後、全職員に周知し、共通認識のもとPDCAサイクルで進めていく。 ・児童一人一人をしっかりと見てその子に応じた取組ができるよう、分掌会での企画や、分掌をまたいだ企画など教職員の主体を重視し教職員のやりがいや児童の育ちにつながるようにしていく。
--------------------	--